



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第23号

目次

- 「三重大COE工学部プロジェクト発足シンポジウム」開催される
- シンポジウム「大学が社会と産業の新たなパラダイムを構築するために」
- 今年度2回目のAPAN国際会議に参加
- 三重県高等学校長協会との連絡協議会が開催

- 天津師範大学からの訪問団来学に関して
- シンポジウム「技術経営 (MOT) 人材育成」
- 「津波避難マップづくり」県下ですすむ
- 人文・工学部合同の防災訓練が実施される
- 「世界の人口問題」講演
- 「青少年のための科学の祭典」第2回三重大学大会

お知らせ

- ・NPO室からー
- ・総合情報処理センターからー

「三重大COE工学部プロジェクト発足シンポジウム」開催される

三重大COEとして、工学部から採択されたプロジェクト「未来エネルギー・コミュニティの成立工学」の発足記念シンポジウムが、1月24日三翠ホールで開催されました。豊田学長の挨拶、加藤工学部長（研究代表者）からのプロジェクト説明に続き、石垣英一・三重県農水商工部長から「燃料電池を核とした水素エネルギー社会構築に向けたモデル地域づくり」への取組みの中での、本プロジェクトへの三重県の強力な支援が表明されました。プロジェクトに関連して、岡崎 健教授・東工大：「水素を核としたこれからのエネルギーシステム - 化石燃料・水素利用・CO2隔離のシステム統合へ」、国保元愷教授・四日市大学：「企業が求める大学の研究開発」、NedStack社 Middelman CEO：「燃料電池と副生水素活用による発電プロジェクト」の3件の招待講演、総括としてのパネルディスカッション「水素エネルギー社会の構築に向けた課題 - 企業・大学・行政が果たすべき役割とは-」が立ち見ができる盛況の中で行われました。このプロジェクトの成功に向け産官学連携の第一歩を記す幸先良いスタートとなりました。

シンポジウム「大学が社会と産業の新たなパラダイムを構築するために」

2月1日、標記シンポジウムが（独）科学技術振興機構研究成果活用プラザ東海、三重県産業支援センターと本学の共催のもと、三翠ホールにて開催されました。岩手大学連携推進センター・小野寺純治教授の「岩手大の地域連携推進について」および金沢工業大学・服部陽一副学長の「工学設計教育とその課外活動環境」の講演後、森野副学長が参加して行われたパネルディスカッションでは、大学の地域連携や教育システムについて活発な議論が交わされました。



写真 左奥岩手大学連携推進センター・小野寺純治教授 右金沢工業大学・服部陽一副学長

今年度2回目のAPAN国際会議に参加



今年度2回目のAPAN(Asia Pacific Advanced Network)国際会議（フラッシュニュース17号掲載）が、1月24日から5日間タイのバンコクで開催され、亀岡、森野両副学長、佐藤助教授・人文学部、川口助教授・災害対策プロジェクト室、木下図書・情報部長が参加しました。昨年末のインド洋津波による大被災を受け、津波の特別セッションが急遽立ち上がり、森野副学長と川口助教授が大活躍され、特に、川口助教授の2回の発表（三重県の地域住民を巻き込んだ意味深い取り組み）は、セッション参加者から絶賛をあげました。また、e-Cultureセッション（チェア：亀岡副学長）は発表メンバーも充実し、今後は佐藤助教授と図書館が中心となって三重大学にアジアパシフィックのe-Culture 情報拠点ホームページを作ることで合意しました。

三重県高等学校長協会との連絡協議会が開催

2月1日に、三重県高等学校長協会等から12名、本学から豊田学長以下13名が出席して、三重県の高校との連携推進の検討を目的とした連絡協議会が開催されました。高等学校と三重大学の代表者同士が公式に話し合いの場を持ったのは初めてのことです。高校側から、高校生にも大学の授業等を開放し、それを単位化すること、大学の求める高校生像や就職状況を広報することなどの要望が出され、今後協議を重ねていくことになりました。

天津師範大学からの訪問団来学に関して

1月28日～30日、大学間協定校である天津師範大学の訪問団が本学を訪れました。一行は、亀岡孝治情報・国際交流担当理事との懇談、天津師範大学からの3人の留学生及び指導教員らとの意見交流会に続き、この春、天津師範大学で開催される三重大生のための「語学研修&文化交流」についての話し合いをもちました。

写真 左より、鐘玉秀日本語科主任、顧鋼外国語学部長、徐建棟副学長、亀岡孝治副学長、丹保健一教育学部長。



シンポジウム「技術経営 (MOT) 人材育成」

三重県、中部経済産業局と本学の共催のもとに、標記シンポジウムが1月19日、津アストホールにて開催されました。太田賢司氏常務取締役・(株)シャープ：「オンリーワン企業と技術経営」、朱政治研究推進部長・(株)太陽化学：「研究開発と人材育成への提言」の講演に続き、パネルディスカッション [長沢伸也教授・早稲田大学 (コーディネータ)、橋本正敏社長・(株)橋本電子、松浦信男社長・(株)万協製薬、上記2講師、森野副学長] で、技術経営型人材育成の重要性や、大学教育の可能性などについて、活発な議論が交されました。

「津波避難マップづくり」県下ですすむ

東海・東南海地震が発生すると大津波の被害が予測されている度会郡南島町では、津波の浸水予測域、避難場所・避難ルートなどを記入した防災マップの作成が行われています。1月8日にはそのための住民参加のタウンウォッチングがモデル地区として選定された神前浦地区で開催され、約100名の住民の皆さんが参加されました。三重大学災害対策プロジェクト室DMPO (室長：畑中重光教授・工学部) から、川口淳大学院工学研究科助教授が参加し、専門家から見た防災マップ作成のためのアドバイスを行いました。今後は、南島町総務課と協力して町内全地区において同様のタウンウォッチングを行い、住民の意見を取り入れた津波避難マップの作成を進めて行く予定です。

人文・工学部合同の防災訓練が実施される



地震防災意識の高まりを受け、地震と津波および火災からの防災訓練を1月20日に人文学部と工学部が合同で実施しました。東南海地震による津波警報の発令を受けたとの想定で、直ちに両学部で避難指令が出され、学生・教職員の避難が全員短時間に無事完了しました。引き続き、消火器と消火栓ホースによる演習が行われ、午後から三翠ホールで中川消防司令・津市北消防署のほか3件の講話がありました。多数の学生・教職員が熱心に耳を傾け、災害は自分で守る意識を確認し合った1日となりました。

「世界の人口問題」講演

1月28日、標記講演が国連人口基金の池上清子東京事務所所長を講師に招いて医学部看護学科看護国際比較論の授業 (担当：櫻井しのぶ教授、大西和子教授、佐藤美佐子教授) で行われました。講演では、年間7000万人ずつ増加している世界の人口問題を様々な実例をあげて話されました。また、リプロダクティブ・ヘルス (<http://www.unfpa.or.jp/glossary/glossary.html#ha-n>) の概念を元にHIV感染に対する性教育のあり方をオランダの公共政策を例に挙げ、各個人の性に関する正しい情報と選択・行動をとる必要性について述べられました。参加者の国際保健に対する高い関心に応え、「愛・地球博」国連館での三重大生とのイベント参加を約束されました。来年は国際機関で働くことの意義について話していただく予定です。



「青少年のための科学の祭典」第2回三重大学大会

1月29日～1月31日、三翠ホールにおいて標記大会 (実行委員長：西岡正泰・教育学部教授) が開催されました。この祭典は、子どもたちの理科離れをくい止めようと、当時の科学技術庁が12年前から始めたもので、三重県では2000年から開催されています。この大会は、本年度の文部科学省「大学改革推進経費」事業の一環として行われ、2日間で1995名の入場者がありました。参加した子どもたちは、本学教職員・学生や小・中・高等学校の教諭らが設けた32のブースで実験や工作を体験し、科学の面白さを実感していました。



お知らせ

NPO室からー 三重大学関連公益法人「地域開発研究機構」事務室オープン

三重大学は地域圏大学として地域づくりへの積極的な参画が期待されています。そのための一つのシステムとして三重大学関連公益法人「地域開発研究機構」が発足しました。総合研究教育棟Ⅱの2階に事務室 (連絡先：059-231-5588) もオープンし、地域づくりのためのシンクタンクとしての役割を担います。まちづくり計画の作成や企業のマーケティング調査などの業務を請け負う予定です。またビデオなどの教材作成や国際交流の支援活動なども行い、大学-学生-地域を結ぶ役割を担います。

総合情報処理センターからー 第4教育端末室 (100人収容) オープン

12月2日、教育実践総合センター1階 (旧学務部) に総合情報処理センター第4教育端末室 (<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/edusystem/room4.html>) がオープンしました。同室は、かねてより要望されていた100人での授業を可能とする教室です。12月13日には、記念すべき第1回の授業が行われました。従来の第1～3教室よりも広々とした設計となっており、授業はもとより、各種講習会等にも快適にお使いいただけます。



投稿のお願い

各種事項 (大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等) に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾